

## 令和6年度 市政懇談会 1 回目

- ・日 時 令和6年11月21日(木) 19時00分～21時00分
- ・場 所 長尾公民館 ホール
- ・出席者 市長、副市長、教育長  
自治会長等60名、傍聴7名  
事務局  
市民部長、生活環境課長(司会)、生活環境課担当
- ・議 題 (1)市政報告(資料1)  
(2)市政への提案・意見等について(資料2)

開催にあたり事前に各自治会から市政全般、地域に共通した内容の市政に対する提案や要望等を募集し、事務局でテーマごとに意見・要望及び回答を取りまとめ資料として参加者に配布した。

時間の関係上、全ての要望等に対する回答は書面として行い、市の課題や広く市民に関係する要望等について市長が回答した後、参加者との意見交換を実施した。

市長の回答及び意見交換の内容は次のとおり

高校・大学について

### ○市長報告

個別の項目に入る前に、高校・大学について経過報告を簡単にさせていただく。まず、高校は皆さん御承知のように私立の藤井学園寒川高校と、県立の石田高校、志度高校、津田高校がある。今、統合ということを話題にしているのは県立の3つの高校である。3高校をどうするのかという問題については、私も決まる前にそれぞれの高校を育てる会があり、その方々と知事や教育長の所へ行き、急いで一つの学校にしなくても今の学校が頑張っているから、もう少し頑張るのを見てから考えたらどうですか。もちろん、少子化で子どもの数が減っていくというのはあるが、そんな壁もあり、そういう時にあえて今、そこまで急がなくてもいいのではないかということを知事や教育長には申し上げに行った。ただこれは県立高校の話で、市立高校ではないので、結果的には県議会の方で、高校のビジョンを作られて、その結果3つの高校を統合すると県から決定がなされた。そして、その具体的な新設高校の場所は、造田駅から南に行った下所の敷地に、最初は令和10年4月の開校を目標にしていたが、今は令和12年、2年遅れるという言い方が正しいか分からないが、令和12年4月には、今ある3つの高校で、その年に3年生になる人は全員新しい高校の3年生、2年生になる人は新しい高校の2年生、そして入学生は新しい高校の入学生として出発する。そういう計画で、県の教育委員会で話を進めている。特に、中身の問題として、それぞれ石田は石田の、志度は志度、津田は津田の特徴を今まで育んできたが、統合してしまうと薄れてしまうのではないかということは、今日おいでの皆さんも懸念されていると思うし、本当に、何でもいから大きいことがいいことではない。どういう内容で、どうするのかという議論を、今も、県の教育委員会が主催している開校準備委員会があるのだが、市も参加をして、その中で開校に向かっていろいろな整理をしている状況である。制服とか、開校年月日とか、教育特色とか、具体的な問題はいろいろあると思うが、香川県教育委員会からは、令和9年度には先

ほど言ったようなことをするためには、そこで発表しないと、令和12年4月に一緒になった時に、その3年生、その2年生になる人が、その他の高校に在学していることから、9年度中には、そういったことを公表したいと考えていると聞いている。

それから徳島文理大学については、来年4月に、高松駅横の、行かれた方は御存知かと思うが、既に夜になると徳島文理というネオンサインが出るような大きい建物が、出来ている。そして、来年4月からは、そこへ移転するという事になっている。ただ、こちらの今現在ある建物、現在持っている運動場については、文理大の考え方としては、高松の文理大の生徒も使うということで、今までは話をしてきた。ただ、この文理大は、私立の学校法人だが、理事長さんが亡くなられて3月だったと思うが、息子さんが、現在理事長になられて学校を運営しており、なかなか維持管理も難しいということがあり、今、学校側とは、前の理事長さん以上に、さぬき市にとって、どういうことに活用するか、例えば、一部を企業誘致の用地として使わせてもらえないかとか、それから、企業を呼んでくる時に、校舎を使って、例えば、薬であれば最先端の新薬を開発するような会社をよんでくるとか、また、非常に広いグラウンドをお持ちなので、それを場合によれば市に譲っていただき地元の皆さんと協議し、こういう企業がいいのではないかとという企業に来てもらう。今、そんな話をしている所である。これについては、先ほどの県立高校が、県の高校であるということと同じように、徳島文理大学がお持ちの建物、それから、土地については、文理大学が持っている個人的な資産なので、今の段階でお願いはできるが、それ以上については、これまでは上手くいきませんでした。今回、今後の管理経費、それから、今後のさぬき市の活性化を考えて、今まで以上に交渉を行っている所である。ただ、キャンパスは、かなり大きく、広いということで、高校が3高統合する話の時には、文理大の建物を使ったらどうかとも思ったが、あそこに入る高校は、もう3つどころでなくて、大げさな話だが、香川県の半分くらいの高校が入っても、十分にスペースがあるということで、3高が入るにすれば、あまり大きすぎるので、その検討を止めた経緯がある。今後、それを使ってもらうためにも、全体を活かすとなかなかうまく相手が見つからないので、一部を使うようなものが、クラスターではありませんが、集約した企業をぜひ呼んで来られたらいいと私自身は思っている。理事長さんを中心にお話を進めている所である。新しい大学になって、今、在校生がいるので、その方たちには、例えば、アパートを借りる場合は、そのアパートの家賃助成や、こちらから通ってもらうことをやりながらできるだけ早く、新しい人がそこでいろいろな営みができるような、徳島文理大学の活性化ができれば、さぬき市にとってもプラスになるのではないかと思っている。

## ○意見交換

### 【多和支会】

結局は、どんな高校を作るか、高校の内容がまだ決まっていないのか。

### 【市長】

抽象的に3高のような、普通科や、工学科、農業科等を合わせた学校というのは、すでに打ち出している。3つのそれぞれを、引き継ぐような学校にするとなっているが、具体的にそれが一つの方向の中に、収まるのは難しいではないかという議論をしてきたが、皆さんに喜んでもらえるような学校になるということで、進めている。

【多和支会】

喜んでもらうとは、誰が喜ぶのか、私も情報はテレビくらいしかないが、時代的に言えば、ITである。情報の、この専門の学校を作りたい、そういう展望が、こんな小さなさぬき市だが、そういう所の着目も必要ではないかと思う。

【市長】

志度高校がそういった学科を持っているので、当然そういうものを含んだ学校にはなるが、総合的なものよりも、先端なものに特化したものを作ったほうがいいのではないかという御意見でしょうか。

【多和支会】

産業も前提に、勉強も学校も作った方が良くと思う。

【市長】

開校準備委員会で、そういった意見も出ているようなので、また、市政懇談会の中にもありきたりの学校ではなく特徴を持った学校を作ったらどうかという御意見があったことは教育委員会の方から伝えていただくようにする。

1 防災対策について

○市長回答

防災対策についてだが、今年は元旦に能登半島で地震があり、半島の特徴として、例えば、先端の方、輪島や珠洲市の方へ行く道が、半島なので、そこが、通れなくなると、陸の孤島になってしまうということが分かった。そして、ちょっと特異な地震でもあって、海底、海の底が隆起をしたということで、少し今までの地震とは、特徴が違うということもあって、なかなか水道、下水道の復旧が遅くなってしまったと考えている。御案内のとおり、これから南海トラフを起因とする、巨大地震の可能性が高くなってきている。大きいものが来るのか、それこそ100年に一度程度か、1000年に一度程度か、これは誰にも分からない。ただ、なんらかの地震が、今から20年から30年の間に、起こる可能性は、もうすでに8割を超えている。8割を超えているのはどういうことかということ、確か昭和21年に南海地震があり、それから昭和が来年でちょうど100年になるので79年になる。そうすると、非常に100年に近づいているので、それに応じて地震の可能性が高い。ただ、これはあくまで可能性だけの話なので、明日来ても、そのプロセスが間違っただけではない。起こるということで、なんらかの形の地震が来るというのは、避けられないと思っている。ただ、それが一番大きいレベル2や、レベル1とかでいろいろ対応を考えているがどちらが来ても一番大事なのは、人の命である。もちろん、建物が壊れたら困るが、人の命だけは取り返しがない。そのためには、まず地震の時に亡くならない。地震の時に怪我をしない。それは、非常に冷たい言い方だが、自分の命は自分で守る、そういったことを、ぜひ、お互いが、念頭に置いて行政は行政でやれること、皆さんは皆さんでやれることをやる。この間も長尾の防災訓練が小学校であり、私もお邪魔した。やはり、訓練も繰り返すことしかなかない方法がない。特に、今住んでいる住宅・家屋の耐震性がないと。耐震性があるかどうかは耐震診断をしなければならぬが、耐震診断するのに100パーセントではないが補助金がある。それで調べてもらう。そして、耐震性がなければ、耐震工事をする。工事も100パーセントはないが、かなり

手厚い補助がある。ただ、工事になると、金額も大きくなるので、すぐにしようかということになりにくい。ただ、実際には、一番自分が一日の間に過ごす時間の長い所というのは、そこにいる時に地震が来る可能性の高い所、それが、もし自宅であれば、自宅について一度、耐震診断を行い、それがアウトであれば工事をする。そういったことを、ぜひ考えていただきたいということで、県の方で、なかなか補助金が使われていない、国の方からも、そんな指摘を受けて、一定の地域については、県と一緒に、少し取り組みをしているが、まだまだ、うちはないだろうという感覚の方が多くて、思うようにはいっていないが、まずは、基本の所で命を失わない。基本の所で、怪我をしない。そして、命を何とか保持した人、怪我をしなかった人が、次に避難政策をどうするのかということで、順をおって考えないと、亡くなった人に、避難所は何の役にも立たない。そういった意味で、本当に、市が指定している、例えば避難場所と避難所と、とりあえずは、例えば、造田であれば、ふれあいプラザで先日どじょう輪ピックをしたが、そこへまず来ていただいて、それから、長引くようであれば避難所へ行くという、そういう訓練を、やはりそれぞれの地区で、造田だけではなく、していただいている。今、石破さんという総理大臣が、今はそういう発言が少し少なくなったか分からないが、防災については、非常に関心が高く、避難所で、集団で少しダンボールのベッドがあるにせよ、ああいう形で避難しているのは日本だけだと。もう少し避難所の質を上げなければいけないということで、そういったものを専門にする部署を作るという動きは、すでに国の方で始まっている。ただ、それは避難所に行ける人の話である。避難所に行く前に、亡くなる人を何とか少なくする。そういったことを我々も考えながら、関連死とも関係するが、避難所へ行ったために、体の具合が悪くなった、そういうことがないような形を、平行してやりたいと思っている。今、注目されているのは、避難所にあまりいろいろなものを集約しても、限界があるのではないか、国はお金の事もあって言っているので、少し心配だが、自宅避難と言って、自分の家が使える、もしくは、自分の親戚が少し離れた所で、被害をまぬがれた、そういった所に避難をしてもらおうということ、これから考えると避難所に行く人がその数だけ減る、数が減れば質が上がる、そういうようなことを、これから、防災の防災庁という名前かどうか分からないが、国はそういった指導をしてくるということなので、さぬき市としては、地震については防災訓練をしながら、まずは、1日1番長くいて、自分がもしさぬき市にいて、地震にあう際に、どこにいるのかというのを考えて、可能性が高い所の耐震性を高めることを考えなくてはならない。そのためには、質問の中にもあるが、避難体験会だが、実際に避難訓練だけでなく、大勢の方なので、すぐに可能かどうか分からないが、例えば、一晩避難所で過ごしていただけるような体験会、そういうのを考えたかどうかという御意見もあるが、なかなか難しいと考えている。また、能登で水道が止まったので、石田支会さんからも御質問いただいたが、昔からの井戸がまだ使えるのがあるのであれば、有効活用したらどうかと御提案をいただいている。ただ、井戸の場合、地震があった時に井戸の地下水脈にかなり影響を受けるので、あまり頼りすぎると、結果的に、水を使うことができないという問題点があるにしても、やはりそういったものも総動員して、できるものを総動員してやるという御指摘だと思いますので、かなり難しいような回答にはなっているが、今後の検討課題、本当の意味での検討課題にすべきだなと。これは余談だが、この間、若い人の会議に行き、秋日でしたので、秋の日はつるべ落としですねと言った時に、

若い人につるべは何かと聞かれた。つるべは、今日は比較的、そんなに若くない人なので、つるべは分かると思うが、例えば棒がついた桶、もしくは、滑車で吊るす桶がついていて、和歌に、「朝顔につるべとられもらい水」というのがあるが、今、多分、子どもは経験していないだろうと思う。だから、確かに昔は、井戸水汲んで来いと言って、それを入れて、下で風呂を焚くようなことがあったと思うが、防災の基本は、リユースと言うが、あるものを使うということももっとやらないと、何でもかんでも全て新しいもので対応しようと思ったら、100パーセントパンクするので、井戸については将来的な検討課題とは書いているが、本当にもう一度、今の機能みたいなのを活用する、そういったことも考えたいと思う。防災対策の場合は、自分の命は自分で守る、そのために、例えば、避難所だけを頼りにしていると、なかなかうまくいかない、自宅避難とか、親戚のお家で話し合いながら、最近、親戚も法事で会うくらいで、日頃、お付き合いが少ない親戚も、私も含めて多くなっているので、一つそういったことも含めて、現実にはできる避難を考えていただきたいと思う。本当に、それに尽きる。最初の揺れで、命を失わない、そういったことを、ぜひ考えていただいて、行政としてできることも合わせて、自主防災組織とともに考えていきたいというのが概括的な話である。また、個別な話で、特に御意見があればお話ししたいと思う。

## ○意見交換

### 【造田支会】

簡単な回答で結構なので、今さぬき市では市長が言われた防災訓練、これに対して各小学校区で、毎年5万、20万、繰り返して防災訓練費を出していただいている。ものすごく役に立っている。そして、昨年から各自治会に、件数割で2万か3万かの防災訓練費、ものすごく力を入れていただいていると思うが、この長尾公民館、志度公民館ができて、避難所としてマンホールトイレとして100人、200人1か月間トイレができる、マンホールトイレができています。こういうものを、長尾地区だけでなく、これから他の所も進めて行く予定なのか。それと、今お話しに出たが、造田のふれあいプラザだが、防災の拠点にいただいているような話を聞いているが、どういう構想を市長としてはお持ちになっているのか。

### 【市長】

最初のトイレの話だが、人間は生活する時に、入れる方も大事だが、出る方はもっと大事と言われている。避難所で体調を崩す人のかなりのパーセントの人が、飲み水とか、食べ物が不足するというよりは、少し遠慮して、排泄ができないために、体調を崩すと言われている。私は余談であるが、市長はトイレを作るのが大好きということで、野間田にもトイレを作り、それから、造田の駅前でJRさんが、トイレをなくした時も、みんなが集まるのでトイレを作り、長尾寺さんにも、長尾寺さんから土地を寄付していただいてトイレを作り、多和小学校も、小学校のトイレを少しリニューアルして、バスで来る時は、多和小学校に行ったらきれいなトイレがある。トイレについては、他の市長よりも関心が高いと自負している。特に野間田のトイレは、消防団の出初式をするので、それまでは、女性隊員の方が、トイレはあるが、昔のトイレしかなかった。それから、運動する小学生、女性も野球やサッカーする人がたくさんおり、子どもが前日から夕食や飲み物を控えるという意見があり、そういうことで作った。ただマンホールトイレの場合、下水道の関係があるので全ての所で同じようにできるかどうかは検討しなければいけない。いずれにしても公共施設を作る時に、トイ

レを1個多く作れる余裕があるようであればトイレを作って、そういったものに対応したらどうかとか、トイレカーというのがあり、車でトイレの設備を持ったものが移動できる。ただ、非常にお金がかかり、一台が3000万円以上するが、そういうものを普段は、例えば東かがわ市や、三木町とか一定の地域で共同購入して、ただ、災害が起きた時にどこへ使うのか心配している人もいるが、それはその時の話にして、トイレをせめて皆さんが遠慮しないようなトイレにするということとして、マンホールトイレが、それぞれの地域で可能であって、一つのトイレの増やす一策だと思っている。なかなか難しいかもしれない。

**【造田支会】**

災害用のトイレが志度と長尾はできたが、他の地域でも進めていくかどうか。

**【市長】**

マンホールトイレができるかどうか、下水道の状況が整備されている所であればできると思うので、それが避難する人数に合わせてマンホールトイレが一番ベターであれば整備したらいい。

**【造田支会】**

いわゆる汲み取りのトイレだが、大きな下水に流さないトイレである。だから災害が起った時に、下水が1ヶ月間は避難している方が使えるという、これが志度と長尾はできたが、災害用のトイレを進めていくかを聞いている。

**【市長】**

もし避難所になる所であれば、どういうトイレがいいか分からないが、トイレについてはできるように整備をしたいと思う。造田ふれあいプラザと児童館があり、近くに空き地があり、この間の日曜日に、どじょ輪ピックをした付近にある。造田の屯所、それから公民館も老朽化しているので、あそこを一つ防災的なものにする構想が今動いている。その手始めで児童館も、センター児童館的な機能を持たせて、できればふれあいプラザとの運営と一緒にすれば、ふれあいプラザの運営も負担が軽くなる。児童館の運営も、お互いが良いところ取りをしたらいいということで、先ほどの高校の話に戻るが、造田駅には、かなりの学生さんが乗降するということになるので、そういった意味では、消防団の分団とか、そういったものもゆくゆくは持っていきたいと思っている。一つ一つは進んでいる。

**【多和支会】**

参考になるかは分からないが、神戸の震災の時にお手伝いに行っていた。そこで聞いた話だが、長田地区は、避難所は学校の体育館、みんなトイレに行きたいので行くが、水が出ない。すると便器に山盛り、積み重なっていたので先生がビニール袋に詰めて処理した。要するに人が暮らせるのだから、それぞれ自分ができることをやっていけばそれでいいと思う。いくら水洗トイレを作っても、水が出なかったら用が足せないのだから水洗トイレにこだわる必要もないと思う。それと命を守るのであれば、もう極めつけがシェルターである。だけど、それぞれがシェルターを作る必要もない。昭和21年の時でも、津田の人に聞いたが、2階から降りるのが躊躇するくらいの揺れだったという程度のもので、多くの家屋が潰れた記録はないようである。だから闇雲に、みんながそれぞれ備えていく必要もないので、専門家から言ったら、ある程度ポイントを見て、素人だからみんな、そのの所に関わっている人間だけが備えることにしたらいいので、全域に備えることは必要ない所もいっぱいあると思う。

それなりに臨機応変でいいと思う。

**【市長】**

トイレの場合、凝固するような、それを固めて、匂いが抑えられるものを防災用品の一つとして備えている。だから、おっしゃっていただいたように、いくら事前に準備しても、それがいらぬような場合があるので、皆さんもそれぞれで工夫をされるかというふうに思う。ただ、命を守ろうということは、たまたま、昭和 21 年の南海地震が、記録があまりないが亡くなった方もおいでるので、いい方法があれば教えてほしい。

**【多和支会】**

携帯のトイレはこのくらいの大きさである。広げて、使ったら固まる。

**【市長】**

1 日に 1 回とかあり、袋がたまってしまうので、その匂いとかの問題もあるので、凝固してそれを、次はどう片付けていくのか。

**【多和支会】**

みんなで話し合ったらいい。皆ができることをやればいい。

**【石田支会】**

防災で、井戸水の拡張について質問があったが、市長のおっしゃる通り、一つの方法である。発言された方も、防災に関してはいろいろな事を具体的にそれぞれ進んでいかないことには、変わっていかないだろう。100 年に 1 回来るのは間違いないので、それが問題なのは、香川県、さぬき市は今まで災害がほとんどないので、心配ないと思っていることを変えないといけないのかなど。みんながやはり、心配なことは井戸水とか、簡易トイレとかいろいろな意見が出てくると思う。お願いしたいのは、防災士の資格者というのを、積極的に進めてほしい。一人だけで進めてやっても、一部の防災訓練をやっても、その内 10 人 20 人とかかなり関心を持って動くが、参加する 200 人 300 人が順番だから出ないといけないという意識で出ている。防災室とか、防災基地だとかいうのを増やすのが一番、必要だと私は思っている。防災士の時、50 人の方が受講されていたが、どんどん増やして、底辺を広げていかない所には、いくら大勢がいろいろやっても間違いなくできない。市の職員の方も積極的に、防災の意識を持って、地域の住民を支えとか、そういうことで進めて行ってほしい。

**【市長】**

いろいろな防災の知識を持った一つの資格に、防災士というのがあり、市もその防災士の資格を取るためのお手伝いというか、金銭的な援助をしている。そして、防災士の資格を取った人が、輪を広げていただきたいと考えている。また、学校でジュニア防災士を養成したらどうかということも、市議会からも提案をしていただいているので、そういった時から少しずつにはなるが、意識を高めていく。ただ、災害が怖いのは、していたらよかったと思った時には、もう遅い。そのことによって命を失ってしまうと、それは元に戻らないというのが、災害の特徴で、また、いつくるか分からない。そして自分にとって、関係がないことはない、そういう意識を、みんなに分かってもらうために、地震を経験したらいいと、私は絶対思っていない。皆さんが天寿を全うしてくれたらいいが、そうもいかないのも、お互い後悔が少ないようにするためには、いろいろな働きかけをしたいと思うので、今の御意見を参考にして、気持ちの部分で大事にし、しかも、実際に行動でやってもらうと分かるのではな

いか。例えば、避難所へ行く時に、ブロック塀が壊れていて行けないこともある。避難所はいつも、ここから行くと思っていたがどこから行くのか困ることがある。少なくとも避難所へ行く時は、2通り以上のルートを日頃から練習というか、訓練の中ですることも、考えて意識をできるだけ持ってもらおうように今まで以上に取り組んでいただきたいと思う。

**【長尾支会】**

防災対策についての回答項目の④についてだが、自治会で各家庭にアンケートを取り出してきたことであるが、市の回答が少し浅いと感じた。この方が言われていることについては私の想定であるが、体が少し不自由である方の意見だろうと思う。高齢であるとか、車椅子に乗っている方もおられて自治会でも避難訓練とかに取り組むのだが、その中で一般的な避難をした時に、長尾公民館は新しくなり、非常に良くなったが、避難した場合に健常者の方であれば、ある程度の苦痛は構わないが、体が不自由である方については、一緒に避難したり、避難に行ったりした時にその場がどういう環境だろうか、自分がそれに対して対応できるのかと。そういった中で、こういう意見がでてきているので、やはり一番良いのは、見える化であるから、公民館の中で一部を利用して使える場所で、モデルハウスではないが避難してきた時に今こういった形の施設で、寝てもらおうとか、休んでもらおうとか。具体的に、もう一歩踏み込んだ形の見える化をしていただいて、来るか来ないか分からないが、そういった一部を使って、その1週間とかの期間を設けて、そういったものを見える化をすることで取り組んでいただきたい。検討をいただけたらと考えている。

**【市長】**

一般的な避難所で生活できる人でなくて、例えば、体に障害があったり、精神の方に障害があったり、いわゆる福祉避難所と呼ばれている所でない、避難生活を送れないような人に、そういった体験をしてもらった方が良いのではないかという意味でしょうか。

**【長尾支会】**

介護が必要な方とか、別の形で考えざるを得ないが、住人の方と一緒に揃って避難したいという意向があるが、回答いただいた事も含め中間的な意見だろうと私は思っている。そういったことで設備や、具体的に何があるのか分かるように見える化というのがあると安心して私はここに行ける。いや、他の方法を考えようかなといろいろな事を選択もできるのではないかと思うので、うまく対応をしていただけたらと思う。

**【市長】**

そういった意味で、避難、体験の簡易的なものをしたらどうかという御提案だと思う。場所、人数、地域、いろいろな制約があると思うが、どこかでそういったものをモデル的にやって、そこでの問題点も、それぞれの自主防災組織に広げていくと、そういうのは一つの考え方だと思うので、こういった事ができるかということについては、検討させていただきたいと思う。

**【鴨部支会】**

防災についてだが、まずは、高校統合に関して非常に疑問に感じており、今回、防災に関しても新しい高校を危機管理課の方で、避難場所にしたいという回答がある。本当の事なのか。



【市長】

そういう話をしていると聞いている。

【鴨部支会】

危機管理課が、県に対して新しい統合高校の校舎を避難場所にしてほしいという依頼をしているというのは本当の事か。

【市長】

避難場所として検討しているのは本当である。

【鴨部支会】

ハザードマップで、非常に造田地区の方、御存知だと思うが何でできるのか、過去 20 年間、水没した場所、ここに避難場所ができるのか。誰が考えてもおかしい進み方をしているので、高校統合も含めて、最初の高校の話も含めて、もう一回立ち止まって、最初市長も浜田前知事、当時の教育長、お二人に言っているが、もう一度、新しい池田知事、教育長に、もう一回立ち止まるべきじゃないかという考えはないのか。根底的にもあるか、我々どう考えても税金の無駄遣い以外何も感じない。南海トラフが起こったら、液状化や、水害が起こったら水没する、そんな所に危機管理課が避難場所にしようと県に依頼するのか。何かおかしいのではないか、根底的に。

【市長】

前提として、高校生が校舎として使う所なので、今言われたようなことは、県がないということが多分言っていると思う。それを前提に、それであれば他よりも少しでも、ましであれば、そこを使うということを検討している。私はそういう意味で理解している。ですから、前提が高校をあそこに建ててはいけないという前提でおっしゃっていると思うが、県は、そういったものをクリアして 2 年間も時間を使って、きちんとした校舎を建てると言っている。それを前提にした時に、付近よりもそこを避難所にしたら、住民の方にとってプラスが多いのではないかということで、県の方が許可を出しているわけではなく検討をしている、そういう状況だと、私は理解している。

【鴨部支会】

文化財が出てきて 2 年延びた、土壌の柔らかい所を今工事している。予算も、県民の税金である。税金を使って、無駄なことをする必要はあるのか、根本的に再検討するように思うが、何か疑問に感じないのか、皆さんは。我々の税金を、造田地区の柔らかい地盤の上を地盤強化して、今、文化財も混じっているらしいが、2 年延びて作ってしまおうとしている県のやり方が、我々は見過ごしていいのか。市としても、本当は反対だったはずだが、結局市長が進めると。

【市長】

私が反対したのは、統合に反対したわけではなくて、その当時の皆さんがおっしゃるように、コロナの真っ只中で、いろいろな状況が変化する中で、慌てて一つにするのではなくて、3 つの県立高校が頑張っているのだから、その頑張っている間、時間を延ばしてそこで統合を考えたらどうか、私は知事と、当時の教育長に話をした。決まった話に何を言ってくるとんでもない市長だと言われたが、私はその時の自分の考え方は誤っているとは思っていない。

ただ、今の段階で知事も変わり、県議会の中でさらに検討をして今の方式で間違いなく大丈夫だという結論を、県が出したとすればその結論について、私は従うと思っているのが今の状態である。

**【鴨部支会】**

佐賀県の吉野ヶ里遺跡の時に、東京の柴田源三郎といった有名人が多々来て、結局止まってしまったという、工業団地だと思うが。今回の高校の遺跡の問題にしても、もう少ししっかり検討して本来、あの場所というのは本当に高校生のために良いのか。

**【市長】**

埋蔵文化財については、今、県が調査をしているので、その結果は当然、私どもには入ってくるかと理解している。

**【鴨部支会】**

皆さんももう一度、しっかり考える時期にきていると思う。まだ止まってほしい、我々は。市長がおっしゃっている、コロナでなくても、今の時期、あそこにつくる意義は一体何なのかということも、もう一度、自治会の方も含めて考えていくべき時期。2年延長になっている事も含めて、考える時期ということも、私としては思っている。

**【市長】**

今のお話は、先ほど言いました、この学校の開校準備委員会に、市も参加しているので、意見があった事は必ず伝える。

## 2 環境衛生について

### ○市長回答

環境衛生の御質問だが、例えば、津田の松原に漂流ごみが打ち上がってくる。そういったものを、なんとか機械で掴むというような方法で、漂流物の回収をしたらどうかと御要望をいただいている。特に、台風後に、津田の松原に行ってみると、海岸に非常に多くの木の屑とか、藻以外の4ページに書いているが、弁当とか空き缶、特にペットボトルが非常にたくさんうち上がってきている。そういったものを、どうしていくのかということと、もう一つは、それは自然に運んできたものだが、山間部では不法投棄で、人目があまりない所に、廃棄物を勝手に捨てる、そういう人が後を立たない。監視カメラを置いたり、注意喚起する立看板を設置したりしているが、これも基本は、廃棄物の不法投棄は犯罪だと、意識を高めていく必要があると考えている。同じ市民の間で、罰則があるから、ないからとかいう話じゃなくて、事前にいろいろな理解を高めていただきたいと思うが、その中での方策を行政の方でも取り組んでいきたいと思う。もう一つは、外国の人との共生の話だが、今から何年か経つと住民の10分の1は、外国の方になるだろうという予測がされている。今さぬき市では、住民登録をされている外国人の方は、もう700人を超えている。フィリピンの方、ベトナムの方とか、たくさんの方がいるが、海外の技術の交流ということで来ているので、会社の皆さんがいろいろな事を教えたりして、住民が守るべきことについては、守っていると思うが、人口の1割、今さぬき市の人口は減っているが、4万4千の、1割の4,000の方が、さぬき市と一緒に生活すると、いろいろな話し合いができない場合もあるので、今のうちから外国人の人と一緒に生活する、共生する。例えば、津田の松原だと思うが、英語だけでなくタガ

ログ語のごみを捨ててはいけないという看板を掲示するなどしているが、効果が上がっているのかどうか検証するには至っていない。さらには、環境問題で、物も困るが犬とか猫とか、動物を御自分で飼って、ある時期に、その面倒を見るのを放棄される方がいる。捨て猫、捨て犬とかについては、県の事業で、地域で猫の管理をしてもらうというのもあるが、糞尿や匂いで苦情がある。野良猫で困っているという、訴えも聞いている。環境についてはもちろん、一人ひとりの自覚で、飼った以上は犬なり猫が亡くなるまで責任を持つことも大事であるし、一方で、避妊をした場合、補助制度もあるので、地域の方でお困りの場合は、生活環境課へ御相談いただき、いろいろな制度を活用し、猫も、犬も、人間も、共生する地域になれば魅力を上げる一つの方法かもしれない。特に、最近では、高齢者の一人で暮らされる方が増えてきた。犬や猫を家族の一員として、一緒に生活をしている。そういった方は、自分の家族なので、面倒を見るが、気まぐれに、犬猫を飼って、自分があまり興味なくなると捨てる、そういったことがないようにお互いが、できることをやっていき、人間、動物の環境について、いろいろな自然の中の廃棄物との関係での環境衛生についても是非とも自治会の皆さんの力を借りて、住みよいさぬき市になるよう取り組んでいきたいと思う。

#### ○意見なし

### 3 農業政策について

#### ○市長回答

農業政策については、さぬき市は第一次産業を何とか振興してそれをベースにして、二次産業、三次産業を、積み上げていくということでは、地方再生はないと思っている。特に、農業政策については、今、非常に関心が高いのが、有機農業、オーガニックビレッジ宣言をしている三豊市のような例もあるが、現実問題として、農薬、化学肥料を全くゼロにして農作物を育てるのは、非常に難しいという意見を聞いている。減農薬とか、減化学肥料、それを少なくするということがとどまっているようだが、そういう時だからこそ、本当の意味でのオーガニックな農作物をもし作ることができれば、これは非常に付加価値が高い。それだけ苦労があり大変だろうと思うが、特徴のあるものだと思っている。小田地区の方に若い方でそういったものをやってみたい、やろうということも聞いているのでどうすれば農作物を育てることと、農薬、化学肥料をゼロにすることが、うまく合致するのか、そういう方法でも、要は産業としての農業が成り立つのか、そういったことを国や県の知恵も借りながら市としても取り組んでいきたいと思っている。もう一つ、農業政策の中で、非常に頭が痛いのは、有害鳥獣の対応である。特に、猪、猿、鹿、ハクビシン等で、収穫しようと思った前の日に、やられてしまう、そういったことが耕作放棄地を広げたり、農業をやっているという意欲を削いだりすると言われている。先日、市長会から知事へ要望したが、例えば個体を捕獲する時の奨励金や、侵入防止柵の補助金とか、特に、個体を捕獲して、猪一頭であれば何万という基準があるが、国が成獣については対処してくれるが、幼獣、いわゆるうり坊は対象にしていない。ちなみに県は、幼獣についても対象にしている。そして、やっていただくことにより、一定効果はあるが、捕獲だけで全てが解決しないので、環境整備をして、山から里へ降りてくるような状況を改善する、いろいろな方法があるが、猿は侵入防止柵を作っても、上から飛び越えてくると聞いている。捕獲箱の設置とか効果が出てくることがあ

れば協議し、そういったものの力を借りて、人間が中山間地域の中で農業が業として営めるよう、条件整備についてこれまで以上に強く、取り組んでいきたいと思う。特に罠の設置については制約があり、県が調査した猿の行動範囲を参考にして、設置しているということだが、設置場所については、今後、農作物の被害の増減も考えて検討することになっているようなので、実情について、農林水産課に御相談いただき、効果のあるものについては、一つずつ取り組んで少しでも環境を整備できれば良いのではないかと考えている。

#### ○意見交換

##### 【多和支会】

猿は厄介だが、猪に関しては、10年前に市長に一つ具申したのが彼らをテロとみなしたら、テロをやっつけるのが自衛隊は得意としていると思うので市長に頼んだのは、自衛隊にどんななトラップを使うかを授けてほしいと、猟友会はやはり高齢者が多いし、仕事にしていくことが難しいので無理だと思うので、自衛隊の方がいい。市長からでも見ていて、せっかく有意義な作戦を授けてもらったが、どうもうまく活用できなかったのも、作戦は残念なので、あなたたちは誰の命令だったら動くだろうか聞いてきて、全国一斉にやるのではなく、試験的にさぬき市でやるのがいいと思う。それともう一つ、オーガニック、これに関しては、市議会議員の方が微生物を使って、豊かな土地、作物を作るようなのをやっているから、聞いてみたらどうか。彼は外国の方も行って、実際にやっている実績があるので、意見を参考にしたら、さぬき市もオーガニックに挑戦できるのではないかと。

##### 【市長】

言われた議員さんは農業の専門家なので、土壌についても非常に詳しいと聞いているので、そういう所にもお勤めだったと聞いている。自衛隊の訓練は未だにできていない。

##### 【多和支会】

自衛隊が訓練でやったのは、高知で通信と搬出する訓練はやった。これは、被害を少なくすることにも繋がってくるので自衛隊に知恵を出してほしいと思う。

##### 【市長】

自衛隊の方が困らないような方法で手伝ってもらえるような、そういう知恵を絞りたいと思う。さぬき市からも、自衛隊に入隊してくれる人を毎年、市長室で激励している。その時に一緒に来られるので、協力をお願いしたい。また、そういったことで地元の災害の時は駆けつけてくれるかと思う。

#### 4 公共施設整備について

##### ○市長回答

公共施設整備は幅が広いが、特に今の市として、頭を痛めているのは、健康長寿の観点から一定の運動ができる、無理をして息を止めてする運動ではなく、有酸素運動ができる施設である。例えば一番典型的なのは、プールでの水中歩行が適していると言われている。今年初めくらいまでそういった施設もあったが、事情により今は閉鎖になっている。それからクアタラソという津田にあったものも、いろいろな事情や経営上難しいということで、なくなっている。寒川のB&G海洋センターとか、夏場のツインパルがあり、何とか健康維持の観点から、特に、高齢者の皆さんの機能回復という点、なかなか難しいかもしれないが、機能が

これ以上低下しないように公民館とか、そういうものを建設する時に併設はできないものかと今、考えている所である。公共施設を作るとお金がかかって大変であるが、維持管理するのが意外に、ボクシングでいうとボディブローをずっと打ち続けられているようで、毎年毎年の金額は、例えば、10年ぐらい経ってしまうと、建てられる経費と変わらないぐらいの経費がいるということと、なかなか維持管理が、それを適宜する必要があるので、例えば水やりとか、どんな形ですのか、実際できてないような公共施設の周辺のものがあるということも承知している。予算額が少ないということとか、そういったこともあるかと思うが、それをどうするのか、刈ったらすぐに、しばらくすると元通りになると、そういうようなことがあるので、継続的にする仕組み、しかもいろいろな合わせ技でやるということ、これから考えていかないと行政の税金だけであるということには、なかなかならない。そしたら、使用料をもらったらいではないかということを使う方もいるが、いわゆる価格転嫁ということで、その施設を利用する人の利用料に入れたらどうか、というようなことも言われるが、なかなか一概にうまくはいかない。そして、機能を何とか維持するということと、そのためには作らなくてはならないということになってきて、今回の要望にもそういったことがあると思う。これについては、先ほどの財政報告でも申し上げたが、億単位のお金になるので、財源をうまく調達をする。そして、何よりも、多くの人に使ってもらえるような施設にする。それと、人口減少の中で、身の丈に合ったといったらありきたりの言葉になるが、うまく施設規模と利用する人のバランスが取れる、そういったことも考えながら、しかし、必要な施設という認識は持っているので、今後の検討の中で地元の御意見を聞きながら、特に公民館については長尾と志度が、そういう形でできたのでそういう所以外にも、是非公民館をというような希望があるのは聞いているので、御要望にどうすればお答えができるのか、今もいろいろ調査・検討をしているので、検討の中で答えを見つけていきたいと思っている。

## ○意見交換

### 【富田支会】

大川公民館の再編整備について、市長に説明していただいたが、この件に関しては、市政懇談会で3年連続、再編整備を要望している。施設が築54年あまりで、老朽化し半世紀以上経っているし、至る所で雨漏りがして支障をきたしている状況である。3年連続提出したら、毎年同じ回答である。そういうことで、6月に地元の議員4名と、関係者が市長に要望を出しているし、地元の議員が定例会で一般質問を出しているので具体的に何年後までに、再編整備をすると、御解答をいただけないか。3年連続で、毎年同じ回答では、前へ進まないのでもよろしく願いしたい。

### 【市長】

やはり地域のバランスを欠いたり、地域によって著しく違うということは、よろしくないというような御指摘をずっといただいている。ただ、全く同じではないと理解をしていて、周辺のいろいろな条件があり、例えば財源の問題としても、従来は認めてくれなかったが、津田と大川については、過疎といういろいろな手助けが必要な地域として国に認めていただいているので、その活用とか、もう一つは大川地区には、公民館だけでなく体育館があり、今のままでは今後、地元の人にとっては使い勝手が非常に悪い。そしたら、体育館と公民館をいかに融合させて、作っていくのか。大川地区は全体としては、さぬき市の人口も減って

いるが、国が指定するぐらいなので、津田と大川については、人口の減り方が他の地域よりも多いというのも事実である。そういう中で、市民の皆さんから大川の体育館は、最優先で考えなければいけないということになるように今、一生懸命努力をしているところなので、言葉だけで全く前に進まないではないかと言われると、私も一生懸命さが少し削がれるので、ぜひとも今のモチベーションを持たせていただいて、今後の検討に期待していただきたいと思う。

**【志度支会】**

健康に関する質問で、遊具を新しく作るのは相当お金も必要だし、維持費も高いと思うが、公園とかに大人の遊具というか、子どもの遊ぶ遊具はたくさんあるが、大人が行って使う、ぶら下がりとか、そういった遊具が結構ある。中国ではたくさんあり、いろいろな人が集まって、外で太極拳をやったり、遊具をしたりと健康のためにしているのをよく見るが、日本は大人が使える遊具が外にはないので、少し作ると施設を作るというよりは簡単だと思う。

**【市長】**

確かに、さぬき市は実は公園の数は、県下の市町でも多いが、地域毎に見ると非常に子どもが遊ぶ公園が少ない。東かがわ市や高松市に行かなければいけないと言われる。確かにその外の遊具、実は遊具については、関西の方だと思うが、市が設置した公園に遊具を作った。そして、たまたま子どもさんがそれで事故を起こして、行政の事なのでプラスよりもマイナスを少なくしたいので、全国的に公園の遊具が少なくなった。しかし、今おっしゃったように、公園というのは、子どもが遊べるというのは大事。それは否定しないが、大人の人と一緒に子どもさんに行って、今言われた具体的な器具がイメージできないが、大人が使えるような遊具、器具を、何か考えるのは一つのアイデアだと思う。都市公園とかでも、他の市の状況を調べて、危なくない遊具で、大人が子どもと一緒に遊ぶことが可能であれば、調査して検討させてもらえたらと思う。

(閉会)